



飯田久美子

ジャズヴォーカリスト/いいだくみこ

profile ● 3歳よりピアノとバレエを始める。学生時代に合唱団などに所属し、その後オリジナルミュージカル等に出演。2003年より故澤田靖司に師事し、ジャズライブシーンにデビューする。2010年、ニューヨークにて、現役ピアニスト最高峰“故ジュニア・マンズ”トリオとレコーディングしCDデビュー。以降3枚のCDをリリースし、国内外で活動を続ける。2014年、第7回澤村美司子音楽賞“奨励賞”を受賞。第30回日本ボーカル音楽賞“新人賞”を受賞。

やっぱりジャズが好き!という思いからジャズヴォーカリストという夢を叶え、国内外で活躍し続ける飯田さんに、ジャズの魅力や今後目指すことなどを伺いました。

ジャズにはまったきっかけと、ジャズヴォーカリストになるまでの経緯を教えてください。

3歳からピアノとクラシックバレエを始め、子どもの頃からクラシック音楽のコンサートやミュージカルなどを鑑賞する機会が多い環境で育ちました。10歳の頃に創作バレエに使われていたジャズの曲と出会い、その魅力に惹かれ、子どもの頃から好きだったミュージカルの曲の多くがジャズだということを知って、ますますジャズを聴くようになりました。

物心ついた頃から音楽を聴き歌い演奏していて、学生の頃は聖歌隊や合唱団に所属していましたが、ジャズはずっと聴くだけでした。結婚や子育てを経て、やっぱりジャズが歌いたいという気持ちが大きくなり、地元のジャズピアニストに手ほどきを受けながら実践を重ねていきました。歌えるレパートリーが増えてステージに立ちましたが、そのときはプロとは言えない出来でした。それが悔しくて、ジャズを系統立てて教えてくれる師匠のもとで学び、3年後にプロとしてのステージデビューができるまでになりました。

これまでの活動と、今後の予定を教えてください。

世界的に有名なジャズピアニストの故ジュニア・マンズとニューヨークでレコーディングするという素敵なチャンスをいただいたのが、プロとして活動を始めてちょうど10年後のことでした。2021年にリリースした3rdアルバムでは、オリジナル5曲の作詞を手掛けています。ジャズフェスティバルやホールコンサート、ディナーショー、ライブハウスでの演奏、学校での講演とコンサートといった演奏活動は、国内外大小問わずたくさん行ってきました。2018年のアメリカンクラブでディナーショーや、昨年行った丸の内のコトブキクラブでの20周年コンサートはたいへん好評でした。

現在は、ライブハウスやホールコンサートのほか、ヴォーカル教室での指導やボランティアとしての音楽活動などに加え、今年からインターネットラジオのパーソナリティーもしています。9月には、鹿児島島津重富荘で飯田久美子20th鹿児島チャリティーディナーショーを開催し、10月26日には若葉文化ホールにて「エリアdeジャズLive」に出演する予定です。

飯田さんが思うジャズの魅力、歌うことの魅力とは何ですか？

私は、ジャズのオフビートの心地よさが大好きなんです。リズム以外にも、複雑なコードやハーモニーの広がり、決まりごとがあるなかで表現できることの自由度の高さもすごく好きです。歌うことは何より楽しいし、自分ができる音楽のなかで一番得意なことだと思っています。歌詞とそこにあるメッセージを伝えるということには、シンガーにしかできない喜びがあります。聴く人が自分なりの情景が目に浮かぶような、心に届いて情景がイメージできるような、そんな歌を歌っていけたらいいなと思っています。

飯田さんのジャズボーカリストとしてのセールスポイントは何ですか？

音域が広くストーリー性のある歌が、自分が得意とするところです。低くてハスキーな声から艶やかな高音、ウィスパーなど、シンガーとしてさまざまな声で歌えるように努力しています。子どもの頃からさまざまな音楽に触れてきて、ジャズだけではなくシャンソンやアルゼンチンタンゴなども歌うので、音域や声色、表現力、ジャンルも合わせて、コンサートでいろいろな顔を見せることができるのがセールスポイントだと思います。

飯田さんにとって音楽とはどんな存在ですか？

私にとっての音楽は、私飯田久美子そのものなんです。音楽を聴いて感動したり、涙が出たり、苦しいときの拠り所になったり、嬉しいときも音楽で表現したり、音楽からたくさんもらったので、それを表現したいんです。音楽で非日常を表現して相手に伝えることで、何か感じてもらえたり、明日から頑張ろうということのお手伝いができたらと思っています。

読者のみなさんにメッセージをお願いします。

私も含め、千葉で音楽活動をしている演奏家の生のコンサートにたくさん出向いて応援してください。皆様がコンサートに行くと、楽しく充実した素敵な日々が送れますことを願っております。

たくさんのものを与えてくれた
音楽を、ジャズを、広めていきたい